

フィリピンの生鮮果実市場

米農省GAINレポート 2025年11月25日

これは米農省海外農業局マニラ事務所(フィリピン)が作成した「生鮮果実市場概要報告書」(一部省略)を翻訳したものであり、米政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要約

世界のフィリピン向け生鮮果実輸出額は、2024年に前年比3%増の3億2,100万ドルに達し、2025年には25%の成長が予測されている。対照的に、2024年の米国からの輸出額は前年比10%減の1,400万ドルとなり、2025年には少なくとも7%の減少が見込まれている。全体的な減少予測にもかかわらず、輸出業者らは新品種の販売促進により、2025年の米国産リンゴの輸出量の増加を期待している。米国は高品質な果実を安定的に供給することが広く認識されており、米国の輸出業者は強力な米国ブランド及び革新的な生鮮果実品種の導入を通じ、フィリピン市場でこの評価を活用することが推奨される。

フィリピン市場の概要

フィリピンの市場機会と成長要因

フィリピンは米国の輸出業者にとって馴染み深く有望な市場である。両国の歴史的関係は、深い社会的きずなを築いており、スポーツ、音楽、食文化への共通の情熱に反映されている。米国製品は、フィリピンの消費者の間で非常に高いブランド認知と好意的評価を獲得している。それにもかかわらず、米国からの輸出はフィリピン市場の大きな潜在力をようやく活用し始めたところである。

輸入農産物と関連製品の需要は、若く成長する人口、増加する所得、国内の食料需要を満たすための輸入依存によって牽引されている。2025年のフィリピンの人口は1億2千万人、成長率は年1.53%と推定され、毎年100万人以上増加して2055年には1億6,400万人に達し、食料及び農産物の需要を一層押し上げると見られる。人口構成は15歳未満が31%、15～64歳が64%、65歳以上が5%で、労働年齢人口の多いこの構造が今後の消費支出と経済成長を持続させるものと予測される。(この項のデータは米国センサス局)

世界銀行によると、フィリピンは2026年までに低中所得国から高中所得国へ移行する見込みである。フィリピン統計庁(PSA)によると、国の食料供給の4分の1を輸入が占めている。これらの要因が合わさって、米国の輸出業者には農産物及び関連製品の増大する需要を満たす有望な機会が提供されている。

国内生産及び貿易の動向

PSAのデータによると、フィリピンの主要果実(バナナ、カラマンシー、マンゴー、パイナップル)の生産量は過去10年で年平均1,270万トン、年率0.2%で緩やかに減少した。同期間の主要生鮮果実の輸出は年平均3.6%、輸入は同7%拡大し、2024年の輸入は前年比3%増の3億2,100万ドルに達した(TDMデータ)。

フィリピンへの生鮮果実供給国

フィリピンは2024年に、主に中国、南アフリカ、オーストラリア、米国及びタイの5カ国から生鮮果実を輸入した。輸入業者らによると、米国は高品質で保存期間が比較的長い果実を安定的に供給することで知られている。南アフリカを除きアジア太平洋地域の国が独占しているのは、主に輸送費の低さと、フィリピンが加盟するASEANとの自由貿易協定による無関税特典を通じた価格の低さに起因するものである。南アフリカはASEANのセクター別対話パートナーとして経済協力を強化している。主要国のシェアと品目を表1に示す。

表1 フィリピンへの生鮮果実主要供給国 2024年

国	総輸入額に占めるシェア	品 目
中国	72%	リンゴ、ブドウ、マンダリン、ナシ、レモン及びライム、オレンジ、その他の柑橘類交雑種
南アフリカ	9%	マンダリン、リンゴ、アボカド、ブドウ、レモン及びライム、ナシ、オレンジ、スモモ
オーストラリア	8%	ブドウ、マンダリン、オレンジ
米国	3%	リンゴ、サクランボ、ブドウ、オレンジ、イチゴ、クランベリー 及びブルーベリー、モモ
タイ	1%	タマリンド、ランサット

注: 輸出国のデータは Trade Data Monitor (TDM) による。対象品目はBICO(海外農業局の品目分類)の生鮮果実

2025年のフィリピン向け生鮮果実供給は8月までに20%増と大きく成長した。輸入業者らは、年間で2024年比少なくとも25%の増加を予測している。

#### 米国のフィリピン向け生鮮果実輸出

過去10年で米国のフィリピン向け生鮮果実輸出は73%減少し、2024年には1,400万ドル未満に下落した。リンゴ、ブドウ、オレンジ、スモモの輸出が大幅に減少した一方で、サクランボ(甘果アウトウ)、イチゴ、ネクタリン及びモモ、ブルーベリー及びクランベリーは著しい成長を示した。

米国の2025年のフィリピン向け生鮮果実総輸出額は7%減少すると予測されるが、業者らは米国のリンゴ輸出の増加を期待している。この増加は、2024年に導入されフィリピンの消費者の間で好評なアンブロシア、コズミッククリスプ、シュガービーの各品種の人気によるものである。米国の輸出業者はこの勢いを活用し、今後も革新的な果実品種を市場に導入することが推奨される。(以下、米国産果実の輸出実績、輸入要件等省略)

#### 市場動向と消費者の嗜好

- フィリピンでは多様な果実が栽培されているが、バナナとパパイヤのみが通年で収穫され、それ以外は季節性がある。このことは、一年を通じ市場の隙間を埋める機会を米国の輸出業者に提供する。国内の果実の収穫期と各月の旬の果実の品目数については付録B、表B1「フィリピンの生鮮果実の季節性」を参照。
- 図1は、2024年におけるフィリピンの生鮮果実輸入量の月ごとの増減を示している。需要は主に法定の「13カ月給与」制度によって年末に急増した。これは雇用主が毎年1カ月分の基本給に相当するボーナスを支払うことを義務付けた制度である。雇用主は通常、11月第1週にもこの支払いを行うため、消費者の可処分所得が増加する。そのため、輸入業者は10月から果実の取扱いを増やした。年末のホリデーシーズンには、12粒のブドウを食べたり、12種類の丸い果実を食卓に並べたりする伝統行事が翌年12カ月間の繁栄をもたらすと信じられているため、丸い果実が特に人気がある。逆に、6月には最も多くの国産果実が旬を迎え(付録B、表B1を参照)、輸入果実の需要が落ち込む。

図1 フィリピンの月別生鮮果実輸入量 2024年



出典: PSA(フィリピン統計庁)データを Trade Data Monitor が編纂。対象品目はBICO(海外農業局の品目分類)の生鮮果実

- 生鮮果実はスーパーマーケットのほか、伝統的な市場<sup>いちば</sup>及び有機栽培品やグルメ、特産品を扱う高級住宅地の週末限定臨時マーケットで販売されている。伝統的な市場は青果物を低価格で提供するため依然として人気があるが、コールドチェーン設備は限られており、多くの商品は常温で保存されている。一方、生鮮果実販売の主要な推進力としてqコマース(クイックコマース)が台頭しており、通常1時間以内の迅速な配送を行う。この傾向により、多くの果実業者がオンラインに移行するとともに、迅速かつ便利な食料品購入への消費者需要の増加に対応するため配送サービス業者と提携するようになった。
- 消費者は目新しい果実品種を試し、SNSでその体験を共有することに積極的である。過去には米国北西部サクランボ生産者協会がこの盛り上がりを活用し、国内の有力シェフ3名を起用して1シーズンに15品種のサクランボの販売促進を実施した。
- 健康と栄養は生鮮果実消費の主要な推進要因である。フィリピン保健省が実施した「健康推進リテラシー追跡調査」の結果によれば、フィリピンの成人の98%が果実や野菜の摂取が疾病リスクを低減することを認識しており、そのうち65%は果実と野菜の両方に言及して回答した。

- リンゴ、柑橘類、ブドウは親しい人への「病気見舞い」の定番である。

## 市場参入戦略

- 米国の事業者は、自社の目的と事業実施能力に合致した参入戦略を選択しなければならない。主なアプローチは次の2つである：
  - **間接輸出**：この戦略は米国内の商社と協力して販売と物流を管理するものである。フィリピン市場への直接的な関与を減らすため、低リスクの参入を求める企業に理想的な選択肢となる。
  - **直接輸出**：この戦略はフィリピンの輸入業者と協力するものである。輸入業者は通常、卸売業者を通じて果実を流通させ、卸売業者はさらに伝統的市場の販売業者、スーパーマーケットチェーン、ホテル、そのほか航空会社のケータリングサービス等の業務用顧客に供給する。レストランやイベントのケータリング業者は、必要量が少ないため、通常スーパーマーケットや伝統的市場から購入する。一部のスーパーマーケットチェーンは、従来の仲介業者を介さずに直接果実を輸入し始めている。
- 販促キャンペーンの展開に当たっては、現地の輸入業者やスーパーマーケットチェーンと密接に協力することが推奨される。品質、風味、品種、栄養価、認証等の独自の強みを強調することが重要である。これらの取り組みを支援するために、研修資料、プロモーションビデオ、高解像度画像、パンフレット、レシピ等の販促用素材を提供する。販売促進活動、試食会、技術セミナー、料理の実演、SNSでのキャンペーン、広報活動等の取り組みは、消費者を効果的に惹きつけ、市場での存在感を高める戦術である。
- 長期的な成長のためには、ブランド構築の努力を継続することが必要である。現地関係者との関係を強化するために定期的な訪問を計画する。大規模ホテルや業務用顧客への直接販売等、新しい販路を探索する。流通チャネルに関する詳細な洞察については、GAINレポート「[フィリピン：進化する食嗜好の中で港と食卓を繋ぐ](#)」を参照願いたい。

## 付録A 表A1 GATS BICOで生鮮果実に含まれる品目（表形式及びHSコード省略）

バナナ、プランテイン、パイナップル、アボカド、グアバ、マンゴー、オレンジ、マンダリン、クレメンタイン、レモン、ライム、グレープフルーツ、ポメロ、その他の柑橘類、ブドウ、メロン、スイカ、パパイヤ、リンゴ、ナシ、マルメロ、アンズ、サクランボ（甘果、酸果）、モモ、ネクタリン、スモモ、スロー、イチゴ、ラズベリー、ブラックベリー、カーラント、グーズベリー、クランベリー、ブルーベリー、キウイフルーツ、ドリアン、カキ、その他の果実

訳注：GATS BICOは米国農務省海外農業局の国際農産物貿易データベースにおける品目分類。バナナからその他の柑橘類までは生鮮のもの及び乾燥したものに限る。ブドウから「その他の果実」までは生鮮のものに限る。「その他の果実」は統計分類上の項目名であり、上に明記した品目以外のすべての果実を含むものではない（例えば、イチジクは含まれない）。

## 付録B 表B1 フィリピンの生鮮果実の季節性（訳者による表の要約）

バナナとパパイヤは通年で収穫される。その他の主要果実（カラマンシー、マンゴー、パイナップル）及びその他の一般果実（アボカド、ドリアン、グアバ、ジャックフルーツ、マンダリン、マンゴスチン、メロン、オレンジ、ポメロ、ランブータン、タマリンド、スイカ等25品目）は品目ごとに収穫期が異なる。2024年の調査では、最多の20品目の果実が6月に収穫期を迎えた（5月と7月はそれぞれ17品目）。